

International Workshop

《Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad》

(国際学術研討会「絲綢之路上的麻扎文化研究」)

参加報告

新 免 康

中国・新疆ウイグル自治区の自治区都であるウルムチの新疆大学（紅湖ホテル）において、2008年8月26～29日の日程にて、新疆および中央アジアにおけるイスラーム聖者廟（マザール）に関する国際学術会議が標記タイトルで開催された。筆者は発表者のうちの一人として、エクスカージョンを除く全日程に参加した。本稿は当該会議の簡単な報告である。

本会議は、トヨタ財団研究助成：アジア周縁部における伝統文書の保存・集成・解題（特定課題）による研究課題「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」の最終成果の産出を目指した「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究——成果普及へ向けた国際会議開催と論集出版」に基づく国際会議であり、新疆大学人文学院と新疆大学人類学民俗学研究センターの共催により、菅原純（上記トヨタ財団助成プロジェクトの代表者）、Rahilä Dawut（新疆大学人文学院副教授）、Arslan Abdulla（新疆大学人文学院院长）の3氏をオーガナイザとして開催された。発表者の顔ぶれは、開催国の中国をはじめとして、日本、ウズベキスタン、カザフスタン、米国、スウェーデンの研究者から構成され、国際ワークショップという名義に値する様態であったと言える。

本会議の基本的な目的は、本会議に参加し、その概要を紹介されたリズワン・アブリミティによってすでに指摘されているように⁽¹⁾、マザールの参詣に関わる様々な諸事象をとりあげ、「フィールド調査と文献研究の両側面から様々な研究分野による最新の研究成果を

⁽¹⁾ リズワン・アブリミティ「シルクロードにおけるマザール文化」『現代中央アジア研究会ニュース』(Japan Society for Modern Central Asian Studies) (JSMCAS), No. 7, 2008.11.5. 発行, 現代中央アジア研究会, pp.1-2.

提示し、「その学術研究における問題意識の共有や学術的知見・情報の交換を図る」という点にあった。

2日間にわたった本会義は、それぞれのテーマに沿った五つのセッションからなり、合わせて19名の発表がなされた。以下、各セッションとその中の各発表について順次簡単に紹介する。なお、プログラムについては本稿末尾に掲げたので適宜参照されたい。

新疆大学副学長 Tashpolat Tiyip とオーガナイザの一人 Arslan Abdulla の挨拶、オーガナイザの一人菅原純の開幕の辞からなるオープニング・セレモニーの後、第1セッション「The voice of Tadhkiras」(以下、セッション名を掲げる際には、会議参加者に配布されたプログラム冊子(英語・漢語の2言語からなる)における英語部分に基づく)においては、様々なイスマーム聖者の聖者伝に関わる研究発表がなされた。①澤田稔の発表は、中央アジア史上の著名な聖者である Makhdūm-i A'zam とその先祖とされる聖者の中で重要な位置を占める Burhān al-Dīn Qilichの伝説と系譜について検討し、系譜とマザールとの関係について論じた。②菅原陸の発表は、「Attārの著名なペルシア語著作である聖者伝 *Tadhkirat al-'awliyā'*」のウイグル文字テュルク語訳を、ペルシア語原書との比較において詳細に分析し、両者の関係性の中から訳者が使用した原書の特徴について推論する。③Ömerjān Nuriの発表は、12イマームの一人である Imām Mūsā Kāzīmの、ホタンに残された聖者伝とホタンにあるそのマザールについて紹介した上で、他所で死んだ聖者の廟が新疆に存在するとされるマザール宗教文化の特徴を指摘する。④ Abliz Orkhunの発表は、18世紀前半のヤルカンドの詩人である Muḥammad Sādiq Zalīlīによって著された、ヤルカンドの有名なマザールである Haft Muḥammadān に関わる *Tadhkira-i Cheheltān* をとりあげ、他の *Tadhkira-i Cheheltān* および *Tadhkira-i Haft Muḥammadān* の写本と比較した。

第2セッション「Mazars in present day Central Eurasia」では、主にフィールド調査に基づく、カザフスタン、中国新疆、中国甘肅などの地域における聖者廟の現代の状況に関する研究成果が提示された。① Aitzhan Nurmanovaの発表は、実地調査で得られたデータにより、近年盛んになりつつあるカザフスタン各地におけるマザール参詣の実態について、とくに参詣に関わる儀礼や習慣に焦点を当てて明らかにした。② Patrick Hällzonの発表は、自身が訪問した新疆の各マザールの様相について、儀礼やアイテム等を含め述べるとともに、ヤルカンドのチルテンのマザールに関するスウェーデン伝道団の記述を紹介した。③王平は、回族居住地域における「拱北」について語った。④王建新の発表(代読)は、実地調査を基に、甘肅省蘭州市に本拠を構える、比較的新しい神秘主義教団である「靈明堂」の歴史と現状に関して検討し、とくに教祖・教主の墓廟である「拱北」が果たす社会文化的機能について考察した。⑤ Ablimit Yasinの発表は、殉教したイマームたちのマザールとされるものがホタ

ン地域に少なからず見られ、崇拜対象となってきたことを確認するとともに、それらとシーア派との関わりについて議論した。

会議2日目に入り、第3セッション「Mazar documents studies」においては、マザールに関わる地域的な諸文書を通してマザールをめぐる歴史的諸相を読み解く研究が提示された。①張世才の発表は、19世紀前半のアーファーク・ホージャ墓に関わるワクフ文書を紹介し、マザールの経済状況の一端について明らかにするとともに、そのウイグル人社会との関係性についても言及した。②Nodirjon Abdulahatovの発表は、フェルガナ地域において最近10数年の間にマザール関連文書の収集・研究作業が飛躍的に進展したこと、それらがマザールをめぐる歴史・宗教・民俗を考究する上で重要な材料となることを指摘した。③Alisher Toshqulovの発表は、9世紀のイスラーム神秘主義者Ḥakīm al-Termizīのマザールと系譜について述べた。④菅原純の発表は、近年見出されたワクフ文書を基に、カシュガル西方のオパール地区に存在する諸マザールの歴史的状況について考察し、これらマザールが歴史上一体性のあるマザール群と見なされ得ることなどを論じた。

特別セッションにおいては、新疆でマザールの研究に従事し、先導的な役割を果たした馬品彦による講演が行なわれた。

第4セッション「Mazars in history」では、文書、聖者伝や様々な記録に依拠しつつマザールの歴史的様相を探る研究が提示された。①Devin DeWeeseの発表は、新疆で19世紀後半に作成されたと考えられるJanbāz Khawājaのタズキラに付された、カシュガル・ヤルカンド地域の聖地目録が、当該時点における新疆のマザール参詣の様相を伝えるものであることを指摘した。②新免康の発表は、19～20世紀におけるヨーロッパ人等外来者の新疆のマザールに対する記録を整理して関連データを示すとともに、スウェーデン伝道団によるHaft Muḥammadānのマザールについての記事を紹介してその価値に光を当てた。③Ashirbek Muminovの発表は、タシュケントで発見された、コーカンド統治下におけるカザフ部族の宗教指導者に関わる文書を検討し、それが19世紀におけるKhwāja Aḥmad Yasawīの子孫を称するシャイフの社会的役割を窺わせるものであることを明らかにした。

第5セッション「Functions and elements of mazar cultures」においては、マザール参詣にともなう様々なアイテム・儀礼行為・習慣などの特徴的な様相について扱う研究が提示された。①Rahilā Dawutの発表は、マザール参詣をめぐる物質化された美術的表現をとりあげ、このような表現形式がどのように形成されたのか、どのような文化的情報を伝えるものなのかなどの問題について、調査による画像の提示を織り込みつつ論じた。②Gulbahar Ghojeshの発表は、クルグズのbakhshiが、神と人とを媒介する霊能者として、イスラームの要素を含みながらも、シャーマニズムに基づく信仰様態を体現しており、その活動においてマザール

ルが重要な位置づけを担っていることを強調した。③周席絹の発表は、新疆のマザールに関わる儀礼について述べるとともに、それらをイスラーム的なものと土着的・シャーマニズム的なものに分け、両者のマザール信仰現象における並存を指摘した。

第5セッションの後、オーガナイザの一人 Rahilä Dawut の挨拶をもって、2日間にわたった学術会議自体は終了した。

最終日はトルファン地域へのエクスカージョンが行なわれ、新疆における代表的なマザールのうちの一つである Toyoq Khojam（眠り人のマザール）を訪問したと聞いているが、筆者は事情により参加できなかった。

本国際会議は、中央アジア・新疆のマザールについて扱っている研究者が各国から集まり、学際的見地から多面的に考究していくための場を共有し、学術交流に従事したという点はもちろんのこと、研究対象となっているマザールが存在する、いわば「現地」の研究機関において、「現地」の研究者と日本の研究者の協力による主導の下、少なからぬ新疆および中央アジア「現地」の研究者の参加を得て実施されたという点において、いわば「現地」からの地域に即した学術成果の発信という面から、画期的な意味をもっている。近年、欧米の研究機関や学会と中央アジア諸国の研究機関・大学との共同で、中央アジアにおいて国際学術会議が開催される例が増えているように思われる。本ワークショップもそのような中央ユーラシア研究の学界における国際的な動向の一環と見なすことも可能であるが、とくに新疆においてその先鞭をつける形になった点は高く評価されよう。また、昨夏の北京オリンピック直後という微妙な時期、新疆におけるデリケートな情勢を考えると、このような国際会議を開催へと導いたオーガナイザの方々の功績は多大なものがあったと言える。本会議を新たな基盤として、関連研究におけるさらなる国際的な連携が促進されるとともに、とくに知的な刺激を受けたであろう新疆の若手研究者たちが自らの研究を進展させ、実り豊かな成果へと結び付けていくことが期待される。

なお、トヨタ財団研究助成の趣旨に基づき、本学術会議による研究論文集の刊行が計画されており、早期の刊行が実現されることを祈ってやまない。

(中央大学文学部)

プログラム

First Day (August 26)

Registration: Lobby, Honghu Hotel (19:00-20:00)

Reception: 2nd Floor Reception Room, Honghu Hotel (20:00-22:00)

Second Day (August 27)

At Conference Room, 5th floor, Honghu Hotel

OPENING CEREMONY

11:00-12:00 (Beijing Time)

Welcome address:

President of Xinjiang University

Arslan ABDULLA (Organizer, Director of The School of Huimany Studies, Xinjiang University)

Keynote:

SUGAWARA Jun (Organizer, Tokyo University of Foreign Studies, Japan)

SESSION 1: THE VOICE OF TAZKIRAS

12:00-14:30 (Beijing Time)

SAWADA Minoru (University of Toyama, Japan)

“Genealogy of Makhdūm-i A‘zam and Cultural Tradition of Mazārs”

SUGAHARA Mutsumi (Tokyo University of Foreign Studies, Japan)

“*Tazkira-yi Awliya* in the Uyghur script”

Omerjan NURI (Khotan Institute of Education, XUAR, China)

“A Manuscript *The Biography of Imam Musa Kazim* and his Mazar” (in Uyghur)

Abliz ORXUN (Xinjiang Tāzkirā Committee, XUAR, China)

“Muhammad Sidiq Zelili and his work *Tāzkira-yi chehelten*” (in Uyghur)

SESSION 2: MAZARS IN PRESENT DAY CENTRAL EURASIA

16:00-20:30 (Beijing Time)

Aitzhan Sh.NURMANOVA (Institute of Oriental Studies, Kazakhstan)

“Ziyarah to the holy places (mazars) in present day Kazakhstan: Revival and innovation processes”

Patrick HÄLLZON (Stockholm University, Sweden)

“Shrine Pilgrimage in the Footsteps of Swedish Explorers”

WANG Ping (Minority Research Institute of National and Religion Committee, XUAR, China)

“Ziyara and Hui Sufi “Gongbei” on the Silkroad” (in Chinese)

WANG Jianxin (Sun Yat-sen University, China)

“The Saint Mausoleums of Lingmingtang”

Ablimit YASIN (Xinjiang University, China)

“The Imam Mazars of the Khotan Area and the Shi’ite Sect” (in Chinese)

Third Day (August 28)

SESSION 3: MAZAR DOCUMENTS STUDIES

10:00-12:30 (Beijing Time)

ZHANG Shicai (Xinjiang University, China)

“The Xinjiang Mazar Economy and Uyghur Society in Qing Dynasty” (in Chinese)

Nodirjon U. ABDULAHATOV (Farg’ona viloyat madaniy meros boshqarmasi, Uzbekistan)

“The Importance of Studying the Mazar Documents of the Farghana Region” (in Uzbek)

Alisher Q. TOSHQULOV (Farg’ona viloyat «Ma’naviyat» gazetasi, Uzbekistan)

“Documents of the Descendants of Hakim Termiziy” (in Uzbek)

SUGAWARA Jun (Tokyo University of Foreign Studies, JAPAN)

“Opal, a Sacred Site on Karakoram Highway: A Historical Approach by the Description of Mazar Documents”

SPECIAL SESSION

12:50-13:30 (Beijing Time)

Invited Lecture by Mr. MA Pinyan (Xinjiang Academy of Social Sciences) on his reminiscences of mazar studies in Xinjiang (in Chinese, with English handout)

SESSION 4: MAZARS IN HISTORY

15:00-17:30 (Beijing Time)

Devin A. DEWEESE (Indiana University, USA)

“The Tale of Jānbāz Khwāja: Pilgrimage and Holy War in a 19th-Century Tazkira from Xinjiang”

SHINMEN Yasushi (Chuo University, Japan)

“*Mazārs* in Xinjiang from a Foreigners’ Perspective in the Nineteenth and the Early Twentieth Centuries”

Ashirbek K. MUMINOV (Institute of Oriental studies, Kazakhstan)

“Significance of Holy Place and Holy Family in the History of the Khoqand Khanate in the XIX Century”

SESSION 5: FUNCTIONS AND ELEMENTS OF MAZAR CULTURES

17:30-20:00 (Beijing Time)

Rahilä DAWUT (Xinjiang University, China)

“Forms of Artistic Expression in the Devotional Practices of the Uyghurs: with the Mazars Culture as an Example”

Gulbahar GHOJESH (Beijing Normal University, China)

“A Research on Kyrgyz Bahshi and Mazar”

ZHOU Xijuan (Willamette University, USA)

“Transition and Transformation: Healing rituals and Mazar worship”

CLOSING CEREMONY

20:00-20:30 (Beijing Time)

Closing address:

Rahilä DAWUT (Organizer, Director of the Center for Anthropology and Folklore, Xinjiang University)

Fourth Day (August 29)

One Day Excursion to Toyoq Khojam Mazar in Pichan County, Turpan District